

令和2年度 学校教育自己診断結果および分析

● 実施時期 令和2年11月

● 回答生徒：68名（25名減） 保護者：4名（5名減） 教職員：23名（2名増）

※昨年度：生徒：93名 保護者：9名 教職員：21名

1. 生徒の自己診断結果

○肯定率の高い項目

肯定的意見(回答3・4の合計)(%)

R2

R1

		R2	R1
7	教え方にさまざまな工夫をしている先生がいる。	88.2%	84.9%
27	人権の大切さについて学ぶ機会がある。	85.1%	76.1%
15	学校で地震や火災などの災害が起こった場合、どのような行動をとればよいか具体的に知らされている。	83.8%	73.1%
3	学校は生徒の意見をよく聞いてくれる。	82.4%	79.6%
16	学校は、みんなが楽しくおこなえるよう学校行事を工夫している。	82.4%	74.2%
22	個人情報についてプライバシーが守られている。	82.4%	81.7%
23	ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある。	82.4%	75.3%

・授業や学校行事については、「7. 教え方の工夫」「16. 学校行事の工夫」が高い肯定率を示した。これらの項目については、教員向けアンケートでも肯定率が高くなった。教員が授業や学校行事の工夫・改善に取り組み、その結果を生徒が肯定的に捉えているという好循環がうかがえる。また、「27. 人権の大切さ」や「23 進路や生き方について考える」といった項目が昨年度より肯定率が大きく上昇した。

・教員とのコミュニケーションについて生徒が肯定的に捉えていることも特徴である。上記の表にある「3. 生徒の意見をよく聞いてくれる」以外に、「20. 悩みや相談に応じてくれる」などの項目も肯定的評価を示した。教員も「9. カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」の肯定率が高いことから、こちらも授業や学校行事と同様に、教員の取組みと生徒の受け止めがしっかり結びついていることがうかがえる。引き続き生徒の課題や背景を踏まえ、生徒に寄り添った指導を展開したい。

○肯定率の低い項目

R2

R1

		R2	R1
28	授業や部活動での活動を通して、地域の人々とかかわる機会がある。	60.3%	47.3%
10	環境、国際理解、福祉ボランティアなどの新しい課題について学習する機会がある。	61.8%	65.6%
1	学校へ行くのが楽しい。	61.8%	60.2%
9	授業やホームルームなどで、学校以外の先生方から話を聞く機会がある。	63.2%	64.5%
5	授業では、実験・観察・実習などの時間がある。	63.2%	63.4%
21	教室以外に、保健室などで落ち着ける場所がある。	64.7%	65.6%
17	あなたは学校行事（体育祭や文化祭）に楽しく取り組んでいる。	67.6%	69.9%

・授業に関する項目では、「10. 新しい課題について学習」「5. 実験・観察・実習」などの項目が他の授業の項目に比べると低くなった。授業改善の視点として、各教科ごとに取り組むことができる内容を模索し、生徒の授業に対する興味関心を高められるようにしたい。

・学校行事の工夫を肯定的に捉える一方で、「17. 行事に楽しく取り組む」は低い肯定率となった。本校入学までに学校行事に参加した経験が少ない生徒が一定数いることが背景にあると考えられる。学校行事を魅力的なものにする一方、入学当初から生徒が行事に参加する場面を増やし行事に参加する姿勢を養っていくことが必要である。

2. 生徒、保護者、教職員の診断結果の比較

○得点の高い項目

「学校に対する項目」

生徒：学校は生徒の意見をよく聞いてくれる。	《82.4%》
保護者：学校は教育情報を、保護者に提供する努力をしている。	《100%》
教職員：生徒指導において、家庭との緊密な連携ができています。	《91.3%》

「教育活動に対する項目」

生徒：教え方にさまざまな工夫をしている先生がいる。	《88.2%》
保護者：この学校には他の学校にない独自の教育活動に取り組んでいる。	《100%》
教職員：生徒のレベルに応じた分かりやすい授業をつくる努力をしている。	《95.7%》

「学校に対する項目」では、昨年と同様に教員と生徒・保護者とのコミュニケーションに関する項目で肯定率が高かった。日常的に様々な場面において、教員が生徒や保護者との連絡を密に行っていることがうかがえる。

「教育活動に対する項目」では、こちらも昨年と同様授業の工夫や進め方に関する項目が高い評価を得た。教員が生徒の学力や学習状況を踏まえて授業の内容や展開を検討し、生徒・保護者がそれを肯定的に捉えているという関係性がうかがえる。昨年と同様の結果になったことから、生徒にとって「分かる・できる授業」の展開を学校全体で取り組む姿勢が定着していると捉えられる。

○得点の低い項目

「学校に対する項目」

生徒：授業や部活動での活動を通して、地域の人々と関わる機会がある。	《60.3%》
保護者：この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。	《50.0%》
教職員：地域の人々と接する機会を持っている。	《36.4%》

「教育活動に対する項目」

生徒：環境、国際理解、福祉ボランティアなどの新しい課題について学習する機会がある。	《61.8%》
保護者：子供は、授業がわかりやすく楽しいと言っている。	《50.0%》
教職員：思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている。	《65.2%》

「学校に対する項目」では、昨年と同様「地域の人々との関わり」「行事への参加」の肯定率が低い結果となった。活動時間や規模などの点で定時制としての制約はあるが、生徒に社会参画の経験を積む機会を用意するという点から、地域と連携した取り組みを検討していきたい。

「教育活動に対する項目」に上がっている項目は、他の項目に比べて低い値を示したものであるが、評価自体は概ね評価されていると捉えられる。今後、新カリキュラムが導入されるなかで項目にあるような「新しい課題」や「問題解決的な学習」を扱うことが求められる。これまで展開し、定着しつつある教員の授業の取組みをもとに、生徒の実情を踏まえた教材研究や授業展開の工夫を進めたい。